

# 経済マンスリー [アジア]

## 景気は回復に向かうなか、懸念されるインド・ベトナムの出遅れ

アジア経済は中国・ASEAN を中心に持ち直しの動きが持続している。消費は底堅さを維持する一方、輸出は緩やかながら回復に向かっている。1-2 月の指標をみると、中国では生産・消費がやや軟調に推移したものの、投資・輸出は加速しており景気は回復基調にある。また、ASEAN の自動車販売は年明け以降も二桁増を維持しており（第 1 表）、景気は消費中心に引き続き好調である。

中国・ASEAN とは対照的に、内需が低迷するインドとベトナムは低調から脱していない。インドはインフレによる金利高、ベトナムは 2011 年 2 月の総需要抑制策に伴う不動産市場の低迷が重石となっている。インドの第 4 四半期の実質 GDP 成長率は前年比 4.5% と約 4 年ぶりの 5% 割れとなったが、年明け以降も低迷が続いている。1 月の鉱工業生産は 3 カ月ぶりにプラスに転じたものの、投資動向を示す資本財はマイナス圏にとどまった。また、2 月の自動車販売は 3 カ月連続で前年割れ、かつ前月からマイナス幅が拡大した。他方、ベトナムの第 4 四半期の実質 GDP 成長率は前年比 5.4% と第 1 四半期（同 4.6%）を底に持ち直しているが、6% 前後と目される潜在成長率を下回るペースにある。不動産市場の低迷を受け多額の不良債権を抱えた金融機関が貸出に慎重になっており、貸出残高は低い伸び率にとどまっている（第 1 図）。

こうした状況を打破すべく、両国は景気浮揚策を打ち出した。3 月 19 日、インド中銀は 2 会合連続で利下げに踏み切った。他方、ベトナム中銀は 3 月中にも不良債権買取機構を設立する予定である。また、中銀は不動産市場の回復を狙い 30 兆ドン（約 14 億ドル）規模の低所得層向けの低利住宅ローンを開始するとの報道もある。

今後を展望すると、根強いインフレ圧力を背景にインドの金融緩和余地は限定的であり、ベトナムも不良債権処理には相応の時間を要する見込みである。海外景気が回復に向かうなか、2013 年のアジア経済は潜在成長率近辺の成長ペースへの回帰が見込まれるが、内需の回復が鈍いインド・ベトナムは出遅れが懸念される。

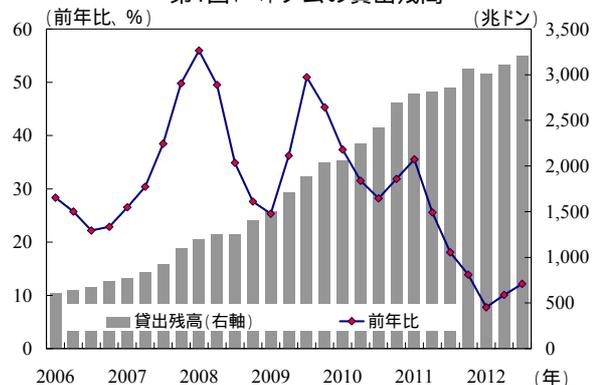
第1表: アジア主要国の自動車販売

	(前年比, %)				
	12/10	11	12	13/1	2
インドネシア	23.6	53.3	11.4	26.5	19.4
マレーシア	3.3	10.5	26.1	17.8	
フィリピン	11.8	20.9	48.1	47.7	-
タイ	233.2	477.6	165.1	65.0	43.6
中国	5.3	8.2	7.1	14.6	
インド	28.0	1.7	▲ 3.5	▲ 5.1	▲ 15.0
ベトナム	▲ 19.7	▲ 3.1	▲ 22.1	5.9	

(注) 中国、ベトナム、マレーシアは旧正月(テト)の影響を排除するため1-2月期実績。シャドローは前年比二桁増。

(資料) CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1図: ベトナムの貸出残高



(注) 四半期ベース。各期間とも年初来の累積ベース。  
(資料) CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。